

第3章

地域別の景観まちづくりの基本方針

【地域別の景観まちづくりの基本方針】

下松市全体の景観まちづくりの基本目標、基本方針を踏まえつつ、下松、未武、花岡、久保、笠戸島、米川の6つの地域における景観特性や地域性を活かした景観まちづくりを進めていきます。

各地域における景観特性と景観まちづくりの課題、景観まちづくりの目標と基本方針を次に示します。



切戸川の桜並木

下松地域の景観まちづくり

星降る伝説と切戸川の潤いが織り成す
臨海都市の景観まちづくり



下松スポーツ公園

久保地域の景観まちづくり

新旧の生活のまちなみが調和しホテルが舞う
街と田園の景観まちづくり



青木線の街路景観

未武地域の景観まちづくり

未武平野に賑わいとゆとりが融合する
新市街地の景観まちづくり



夕日岬から見たはなぐり岩

笠戸島地域の景観まちづくり

島特有の風景を守りつつ観光振興に繋がる
笠戸島の景観まちづくり



花岡八幡宮

花岡地域の景観まちづくり

宿場町の歴史文化の趣を感じる
花岡特有の景観まちづくり



未武川上流の溪谷

米川地域の景観まちづくり

棚田が広がる農村風景と
四季折々の自然を映し出す湖面を活かした
里山の景観まちづくり

1. 下松地域の景観まちづくりの基本方針



下松地域の景観まちづくり

星降る伝説と切戸川の潤いが織り成す 臨海都市の景観まちづくり

JR下松駅を中心に広がる市街地は、市役所や下松公園などの公共の景観、下松タウンセンターなどの商業施設の景観、臨海部の工場の景観など生活の景観にあふれています。また、「星が降った松」の伝説にまつわる金輪神社や星を信仰する「妙見信仰」の発祥の地とされる降松神社、妙見宮^{じゅうとうじ}鷲頭寺などの歴史的な景観があります。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- 市街地の背景となる茶臼山から旗岡山に続く緑の稜線や、桜の名所として親しまれる切戸川は、市街地の緑の軸線となっています。これら市街地に潤いを与えている緑や河川空間の自然環境の保全が望まれます。
- 下松公園、笠戸島公園線からは笠戸湾の眺望景観を見ることができます。笠戸湾の眺望景観をより多くの人を楽しめるように、高台や道路からの眺望を確保することが望まれます。



旗岡山

【歴史文化の景観】

- 降松神社若宮や妙見宮^{じゅとうじ}驚頭寺は地域の信仰の対象として時を経た歴史的な景観を形成しています。また、大黒市や節分祭など歴史ある行事が市民の楽しみとなっています。
- 「星が降った松」の伝説にまつわる神社仏閣、^{かなえ}「鼎の松」など地域の歴史を伝える景観を守り、伝えていくことが望まれます。



下松公園



降松神社若宮

【生活の景観】

- JR下松駅南地区は市街地の再開発や元町商店街における道路の整備にあわせた建て替え、交流拠点である「きらぼし館（駅南市民交流センター）」が立地し、賑わいと機能性のある都市景観が形成されています。また、星降る街のくだまつ夏祭りや住吉まつりなどのイベントが行われ、市民の楽しみとなっています。
- シンボルラインを形成する中央線沿道には、下松タウンセンターを中心とした沿道型商業施設や、交流拠点である「ほしらんど くだまつ(市民交流拠点施設)」が立地し、賑わいあるまちなみ景観が形成されています。
- 臨海部には我が国を代表する大規模な工場群が工場の景観を形成しています。植栽を施すなど殺風景になりがちな工場の景観を和らげる工夫が望まれます。
- 下松公園にはシンボルタワーである星の塔があり、桜などの花や緑と融和して、季節ごとで移ろいのある公園の景観が形成されており、身近な市民の憩いの場となっています。
- 豊井地区まちづくり整備計画による市街地整備が進められており、良好な住環境と安全で快適な市街地環境が調和した、新たなまちなみの形成が望まれます。



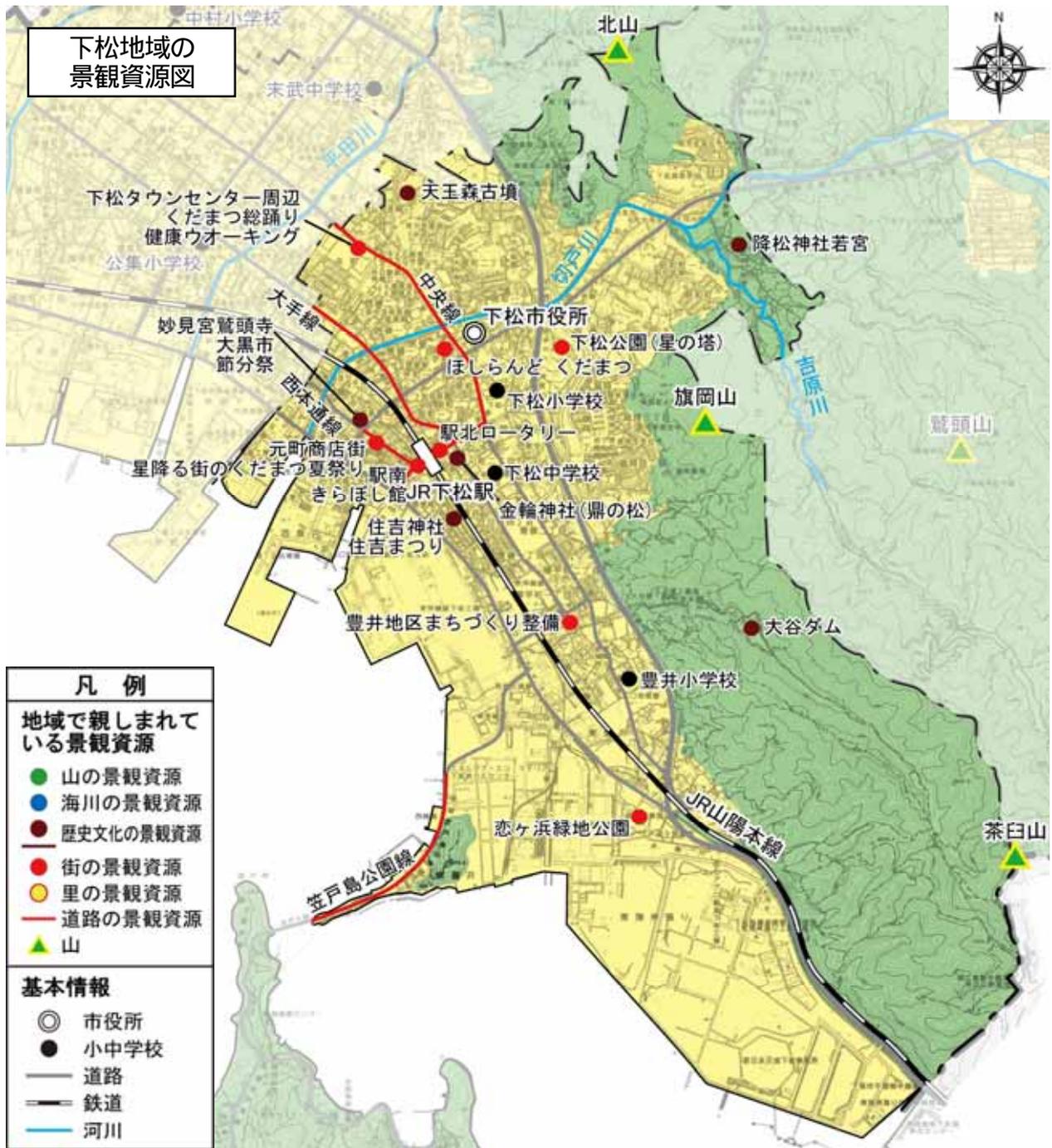
星降る街のくだまつ夏祭り



下松タウンセンター



工場の景観



景観の要素		地域で親しまれている景観資源
自然の景観	山・川・海の景観	旗岡山、切戸川
歴史文化の景観	歴史文化の景観	降松神社若宮、妙見宮鷺頭寺、金輪神社（鼎の松）、住吉神社、天王森古墳、大谷ダム
	祭りの景観	大黒市、節分祭、住吉まつり
生活の景観	街の景観	J R下松駅、駅南、元町商店街、下松タウンセンター周辺、ほしらんど くだまつ（市民交流拠点施設）、きらぼし館（駅南市民交流センター）、豊井地区まちづくり整備
	道路の景観	駅北ロータリー、中央線、大手線、西本通線等のシンボル道路、笠戸島公園線
	公園の景観	下松公園（星の塔）、恋ヶ浜緑地公園
	祭り・催しの景観	星降る街のくだまつ夏祭り、健康ウォーキング、くだまつ総踊り

景観まちづくりの目標

星降る伝説と切戸川の潤いが織り成す 臨海都市の景観まちづくり

臨海部を中心とした産業の活力に満ちた市街地に、「星が降った松」の伝説にまつわる歴史文化と市街地に潤いをもたらす切戸川などが、地域固有の景観を織り成す臨海都市の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- 市街地の背景となる茶臼山から旗岡山に続く緑は、豊かな自然を感じられる山並みとして保全に努めます。
- 市街地を流れる切戸川は、適切な管理とあわせて防災性や親水性の向上に努め、地域に安らぎと潤いをもたらす水と緑の景観軸の形成をめざします。また、桜の名所としての魅力を高め地域振興への活用を図ります。
- 笠戸湾や市街地を望む高台の公園や道路は、美しい眺望確保に配慮した適切な管理に努め、地域を代表する眺望拠点としての活用を図ります。



駅北口からの山並みの眺望



下松公園からの眺望

方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- 妙見宮鷲頭寺や金輪神社などの神社仏閣は、周辺の緑と一体的な保全に努めるとともに、大黒市などの神事や祭事等の価値を再認識し、地域の個性ある歴史文化の景観としての伝承を図ります。
- 金輪神社の「鼎の松」や降松神社、大谷ダムなどは、地域の歴史を伝え発信する拠点としての活用を図ります。



妙見宮鷲頭寺



鼎の松

方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- 市の玄関口である、JR下松駅周辺の住宅と商業機能の調和のとれた土地利用の誘導とあわせた、活気や賑わいのあふる景観形成をめざします。
- 活力ある産業景観を形成する臨海部などの工場地周辺は、緑化の推進を図り、生活環境と調和した潤いある景観の形成をめざします。
- シンボルラインを形成する道路軸は、適切な景観誘導を図り、秩序ある賑わいの景観の形成をめざします。また、賑わいを生み出す地域の活動拠点、交流拠点として適切な管理に努めるとともに地域振興への活用を図ります。
- 公園は市民が気軽に利用できる憩いの場として適切な管理に努めるとともに、多目的トイレや防災東屋などの整備を行い、防災性の向上を図ります。
- 新しいまちづくりが進む豊井地区は、賑わいとゆとりが調和した市街地景観の形成をめざします。

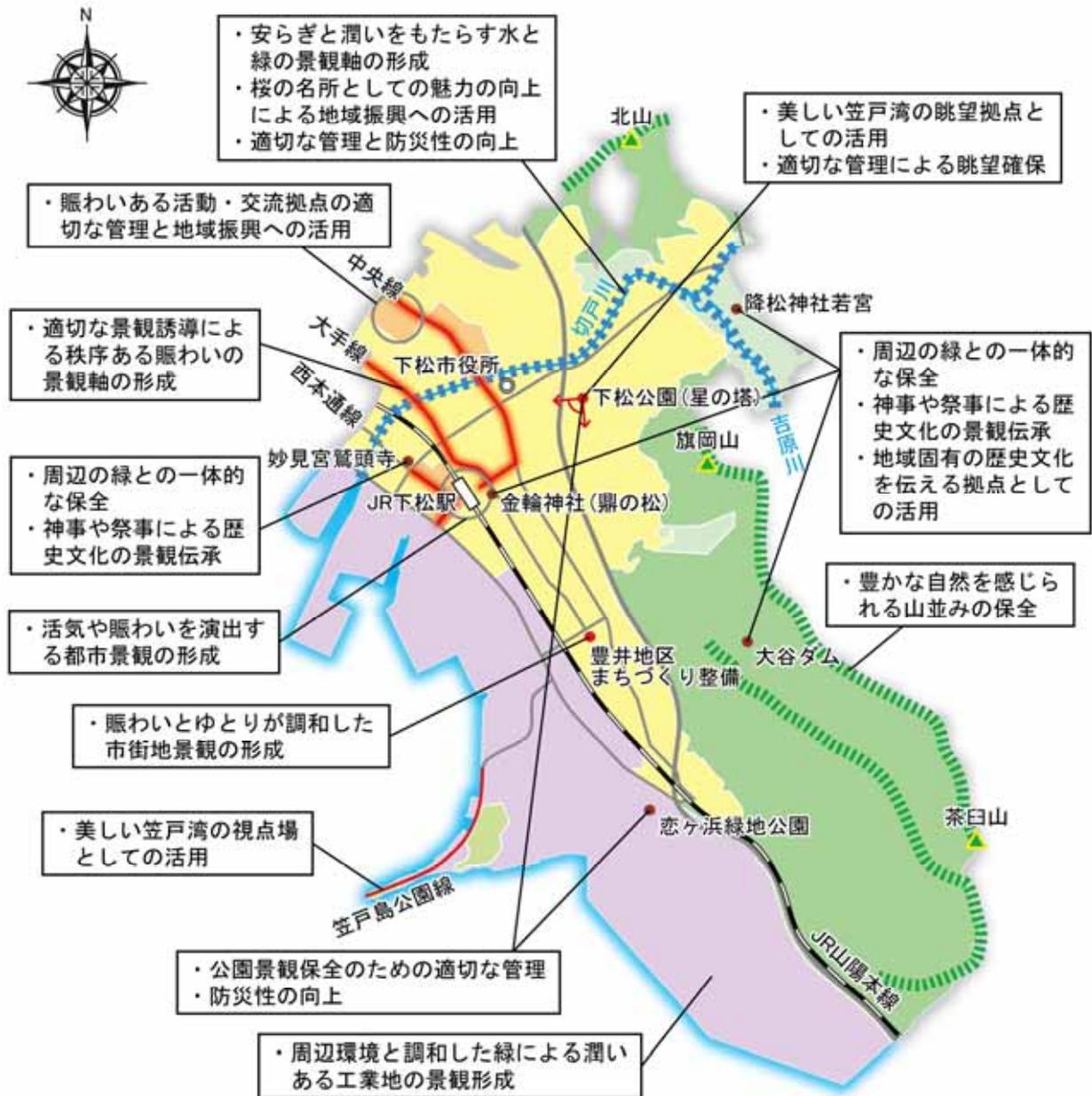


元町商店街



シンボルライン(中央線)

下松地域 景観まちづくり基本方針図



景観の軸と点

自然の景観	稜線軸		面的な景観（土地利用）	自然の景観	森林の景観	
	主な山			湖面の景観		
	河川軸			生活の景観	農地の景観	
	主な景観資源			住宅地の景観		
歴史文化の景観	旧山陽道			公園・緑地の景観		
	主な景観資源			商業地の景観		
生活の景観	賑わいの軸			工業地の景観		
	主な景観資源					
	主な集落					
	道路の景観資源					
	主な眺望地点					

2. 末武地域の景観まちづくりの基本方針



青木線の街路景観

末武地域の景観まちづくり

末武平野に賑わいとゆとりが融合する 新市街地の景観まちづくり

末武地域は、臨海軸、山陽道軸、末武川軸という都市の3つの活動軸が重なり合う地域として、ほぼ全域で市街化が進んでいます。臨海工業地域の一角を担う工場群と沿道型商業施設が集積するシンボルライン（末武大通線、中央線、大手線）、整然とした住宅地、市街地の貴重な水と緑の空間である末武川、平田川の流れが、地域景観の骨格をなしています。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- 市街地からは、周南市との市境に位置する荒神山（岩熊山）、北東部の北山、鷺頭山などの山々を眺望することができ、市街地の緑の背景となっています。
- 市街地を緩やかに流れる末武川や平田川は、貴重な水と緑の空間を形成し、川岸の桜の風景や子どもたちが魚釣りを楽しむ風景などを見ることができます。これら市街地に潤いを与えている河川空間の自然環境の保全と親水性の向上が望まれます。



荒神橋から見る荒神山



末武川

【歴史文化の景観】

- 後野社や祇園神社など地域内に点在する神社仏閣は、古くから地域の信仰の対象となり、地域固有の風土の形成に関わっています。
- 現在鶴ヶ浜にある灯明台は、かつて下松港入口だった海岸沿いの洲鼻で笠戸湾に出入りする船舶の安全を守っていたもので、笠戸湾の港の歴史を今に伝えています。
- 市街化が進み、まちなみの変容が著しいなか、街中に埋もれつつある地域の歴史文化資源や情緒ある風景を、大切に守っていくとともに、次世代に伝えていくことが望まれます。



祇園神社

【生活の景観】

- 下松市のシンボルラインに位置づけられる末武大通線や中央線沿いには、大規模店舗や商業施設が立ち並び、賑わいのある都市景観が形成されています。
- 中部土地区画整理事業による市街地整備が完了し、下松市の新たな顔となるまちなみが形成され、花と緑の景観づくりや清掃活動など、市民協働の景観まちづくりが進められています。
- 青木線や大海線が整備され、道路周辺には商業施設や住宅が立地するなど新しいまちづくりによる景観が形成されています。発展を続ける市街地の美しいまちなみ景観の形成が望まれます。
- 下松ふ頭公園や建設が計画されている新斎場などの公共空間については、地域協働による管理と魅力づくりを含めた景観まちづくりが望まれます。



灯明台

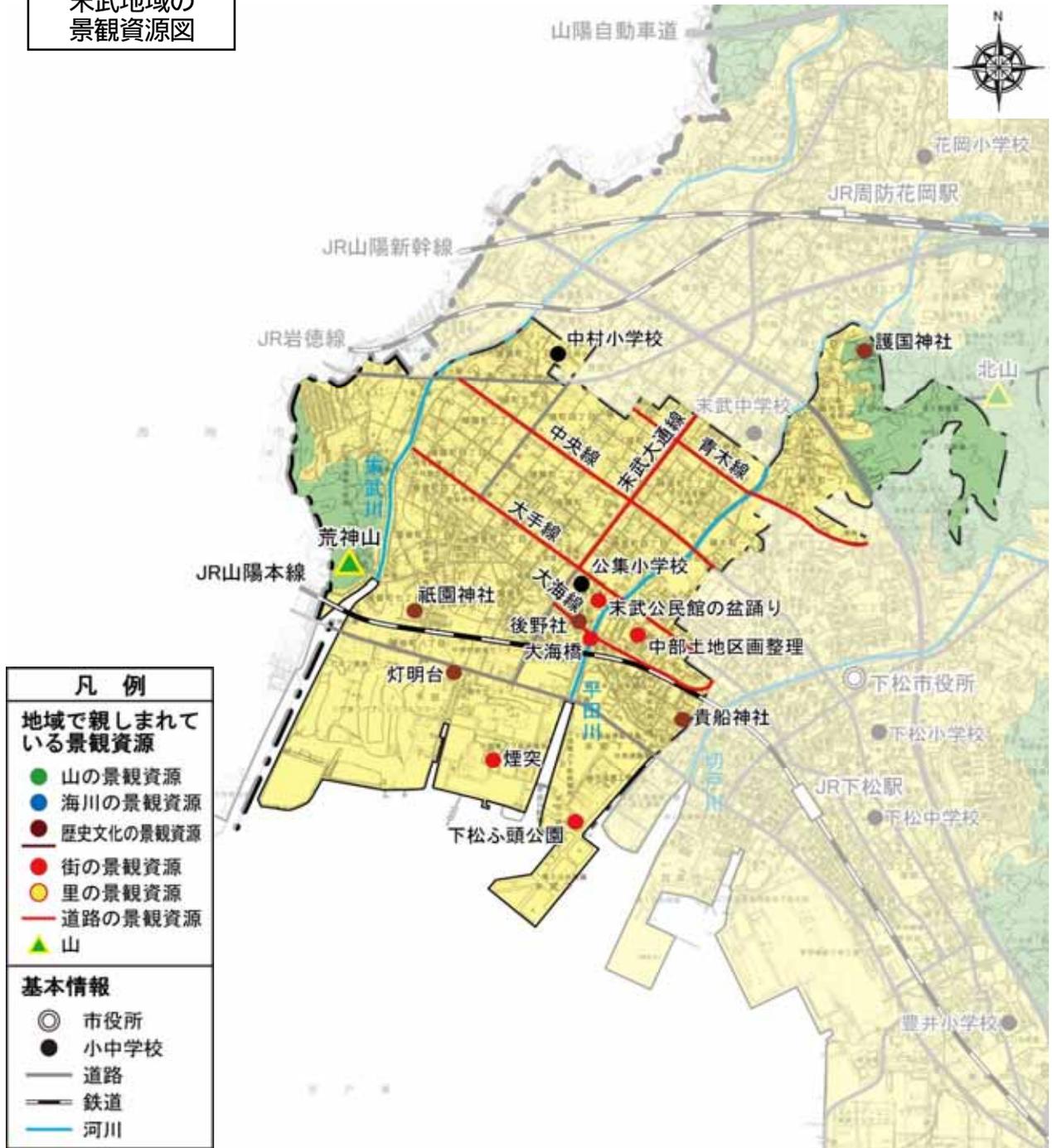


中部土地区画整理



下松ふ頭公園

未武地域の
景観資源図



景観の要素		地域で親しまれている景観資源
自然の景観	山・川・海の景観	荒神山、未武川、平田川
歴史文化の景観		うしろのしゃ 後野社、祇園神社、灯明台、護国神社、貴船神社
	祭りの景観	後野社春まつり、護国神社春季大祭、貴船神社大祭
生活の景観	街の景観	未武大通線沿道の商業施設、中部土地区画整理、大海橋、煙突
	道路の景観	中央線、大手線、未武大通線等のシンボル道路、青木線、大海線
	公園の景観	下松ふ頭公園

景観まちづくりの目標

末武平野に賑わいとゆとりが融合する 新市街地の景観まちづくり

市街化の発展が著しい末武平野で、地域の骨格を形成する「道路」「河川」「海岸線」の都市軸を活かしながら、産業の賑わいとゆとりある住環境が融合する新市街地の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- ・市街地の背景となる荒神山（岩熊山）や北山などの緑は、豊かな自然を感じられる山並みとして保全に努めます。
- ・市街地を流れる末武川や平田川は、適切な管理や親水性の向上に努め、地域に安らぎと潤いをもたらす水と緑の景観軸の形成をめざします。



方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- ・後野社や祇園神社などの神社仏閣は、周辺の緑と一体的な保全に努めるとともに、神事や祭事等の価値を再認識し、地域の個性ある歴史文化の景観としての伝承を図ります。
- ・灯明台など街中に埋もれつつある歴史文化資源は、地域の歴史を伝える資源として再認識し、地域への誇りや愛着を高めつつ保全に努めます。

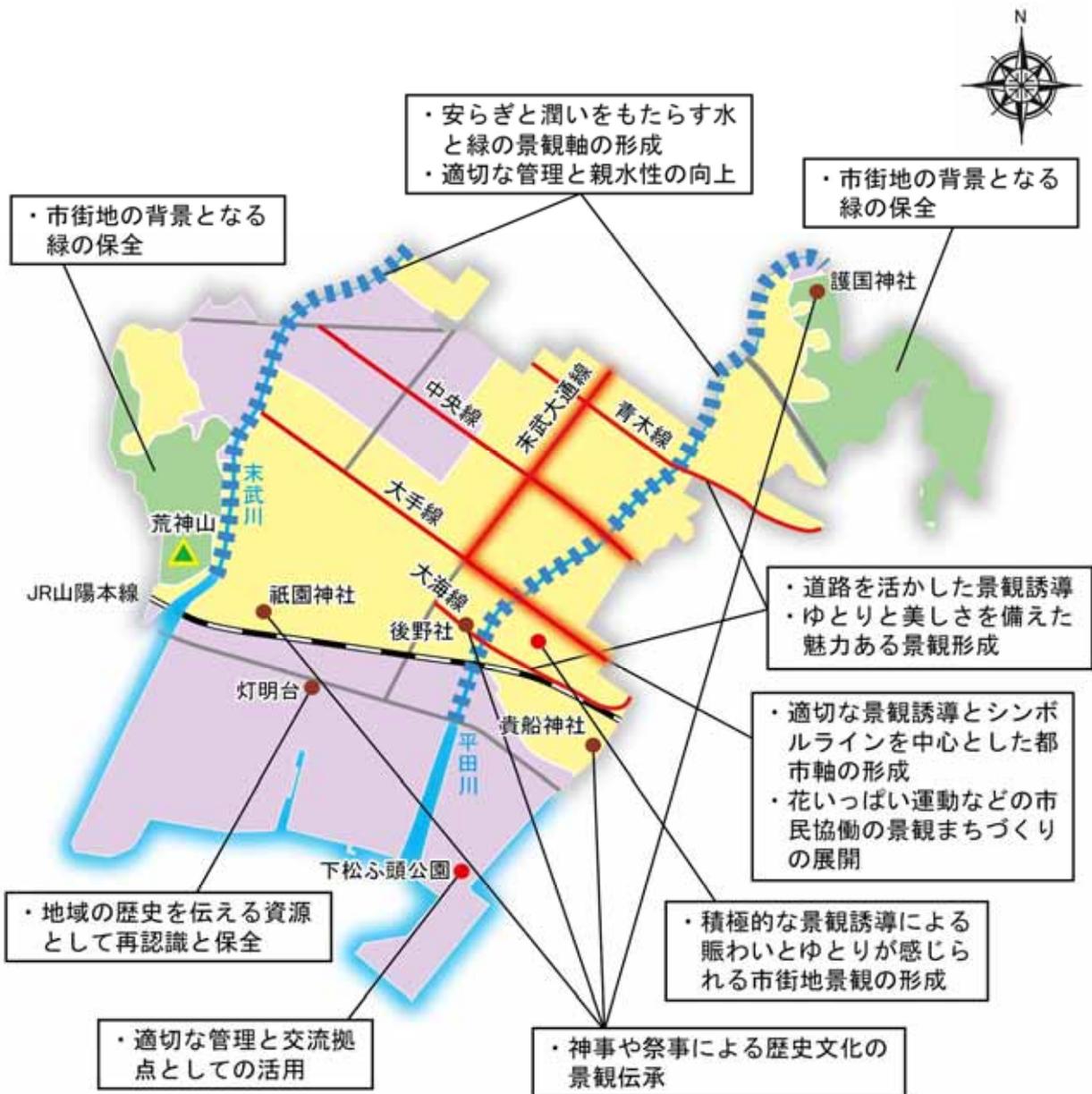


方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- ・シンボルラインを形成する末武大通線や中央線などの道路軸は、適切な景観誘導を図り、新たな顔となる都市軸として、風格ある景観の形成をめざします。
- ・地域全体が秩序ある市街地となるよう、住宅や産業施設の調和のとれた賑わいとゆとりが感じられる市街地景観の形成をめざします。
- ・道路沿いの花壇を活用した花いっぱい運動などの既存活動を推進しつつ、市民協働の景観まちづくりの展開をめざします。
- ・青木線や大海線は、道路を活かした新しいまちなみ景観の誘導を図り、ゆとりや美しさも備えた魅力ある景観の形成をめざします。
- ・工業地の貴重な緑の拠点となる下松ふ頭公園は、適切な管理と魅力の向上に努め、臨海部における交流拠点として活用を図ります。



末武地域 景観まちづくり基本方針図



景観の軸と点

自然の景観	稜線軸	
	主な山	▲
	河川軸	
	主な景観資源	●
歴史文化の景観	旧山陽道	—
	主な景観資源	●
生活の景観	賑わいの軸	—
	主な景観資源	●
	主な集落	●
	道路の景観資源	—
	主な眺望地点	👁️

面的な景観（土地利用）

自然の景観	森林の景観	■
	湖面の景観	■
生活の景観	農地の景観	■
	住宅地の景観	■
	公園・緑地の景観	■
	商業地の景観	■
	工業地の景観	■

3. 花岡地域の景観まちづくりの基本方針



花岡地域の景観まちづくり

宿場町の歴史文化の趣を感じる 花岡特有の景観まちづくり

花岡地区は地形的に、中国山地と平野部との東西方向の境界付近にあり、古くから山陽道がはしる交通の要衝でした。旧山陽道の宿場町として栄えた宿場町の面影は失われつつありますが、花岡八幡宮の石段と社殿、関伽井坊多宝塔などの歴史を感じさせる貴重な歴史文化資源が多く、市を代表する景観があります。

また、国道2号、末武大通線などの幹線道路には、大規模な商業施設を中心とした沿道型商業施設が立ち並び、JR周防花岡駅周辺では住宅地化が進むなど新しいまちなみが形成されています。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- 花岡北部の山々は、市街地の景観を和らげる緑の背景となるとともに、湧水を利用した酒づくりが行われています。これら豊かな山々の緑を保全することが望まれます。
- 米川から流れる末武川は花岡で平野部に出て、ゆったりと蛇行して流れ、田畑を潤しています。土地の開発などにより、農地は急速に減少していますが、地域の身近な水辺空間であり、親水性のある市民に親しまれる景観づくりを進めることが望まれます。



花岡北部の山々



末武川

【歴史文化の景観】

- 石畳の長い参道と石段、灯籠が置かれている花岡八幡宮や国指定重要文化財に指定されているあかいぼうたほうとう関伽井坊多宝塔など歴史文化の景観を形成しています。これら地域の歴史文化の景観を保全していくことが望まれます。
- 旧山陽道の宿場町であった花岡には、花岡八幡宮、福德稲荷社、花岡勘場跡（萩藩代官所）等があり、歴史文化の景観を形成しています。宿場町の面影を伝える建造物を保全活用し、歴史文化景観を後世に伝えることが望まれます。
- 毎年11月3日に開催される稲穂祭（きつねの嫁入り）では、きつねに扮した嫁入り行列が旧山陽道を練り歩き、歴史文化の趣が漂う祭りとなっています。



関伽井坊多宝塔

【生活の景観】

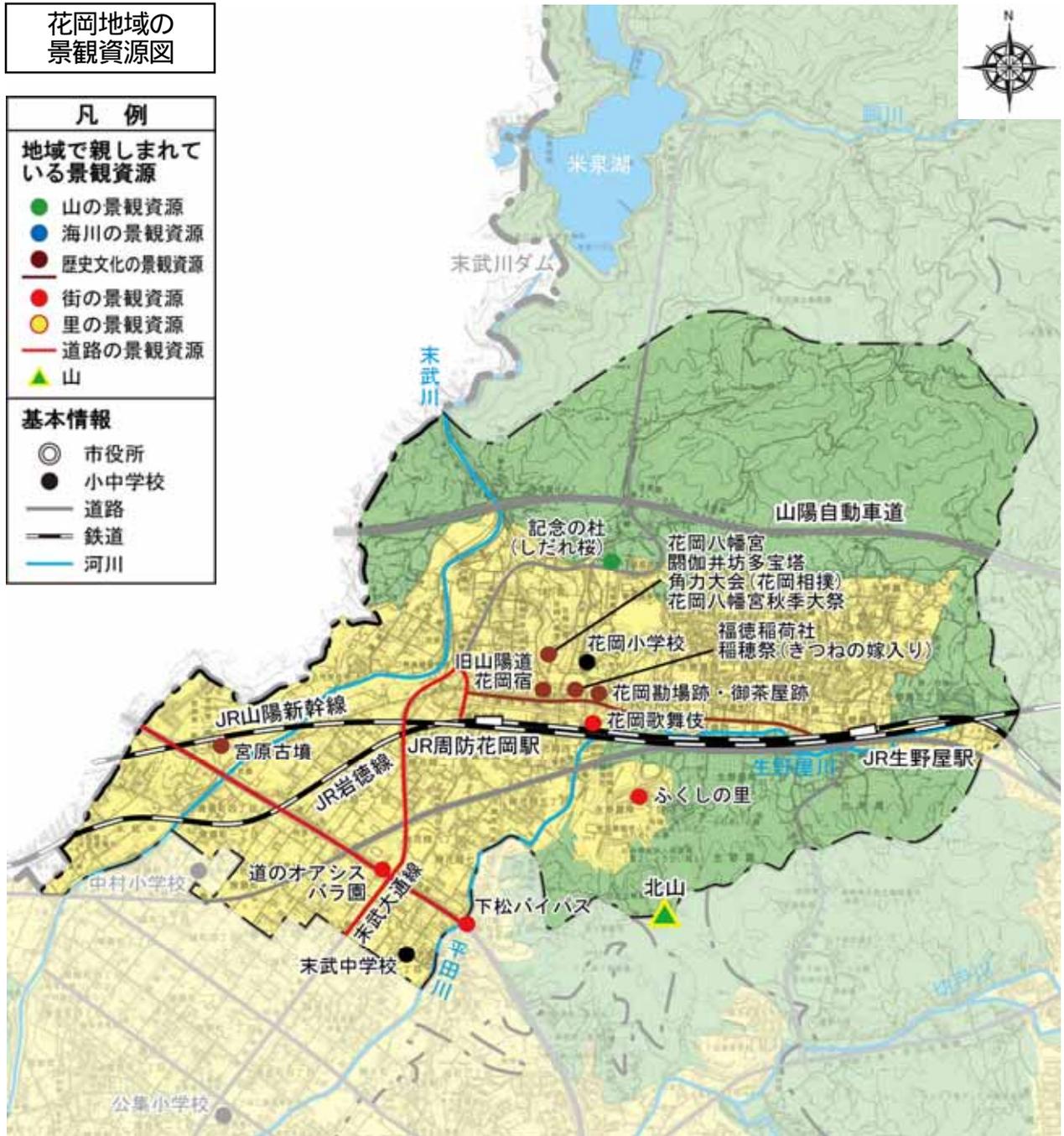
- 国道2号、末武大通線などの幹線道路に、大規模商業施設や沿道型商業施設が立地するとともに、市街化が進展し地域全体で住宅が増加しています。商業地と住宅地が調和して共存する秩序ある景観環境形成が望まれます。
- ふくしの里は、病院をはじめ地域交流センターやふれあい広場、親水公園が複合した医療・福祉の拠点となる地区で、花岡北部の山々や北山の山稜を眺めることができ市民に親しまれています。
- 宿場町としての面影が失われつつある中、古いまちなみや民話・伝説を知り、伝えていくことが望まれます。



福德稲荷社



ふくしの里



景観の要素		地域で親しまれている景観資源
自然の景観	山・川・海の景観	北部の山々、北山、末武川、記念の杜（しだれ桜）
歴史文化の景観		宮原古墳、旧山陽道花岡宿（花岡八幡宮周辺）、花岡八幡宮、関伽井坊多宝塔、福德稲荷社、花岡勘場跡・御茶屋跡
	祭りの景観	稲穂祭（きつねの嫁入り）、花岡八幡宮奉納角力大会（花岡相撲）、花岡八幡宮秋季大祭
生活の景観	街の景観	J R周防花岡駅、沿道型商業施設
	道路の景観	下松バイパス、道のオアシスバラ園、末武大通線等のシンボル道路
	公共施設の景観	ふくしの里
	祭り・催しの景観	花岡歌舞伎

景観まちづくりの目標

宿場町の歴史文化の趣を感じる 花岡特有の景観まちづくり

商業施設の集積や住宅地化の進展などにより変わりゆく市街地に、旧山陽道を軸として宿場町の歴史文化の趣を感じることができる花岡特有の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- ・市街地を取り囲む北部の山々と南部の北山の緑は、豊かな自然を感じられる山並みでもあり、地区を特徴づける空間でもある社寺林とともに、緑地環境の保全に努めます。
- ・市街地に潤いを与えている末武川や平田川は、適切な管理や親水性の向上に努め、地域に安らぎと潤いをもたらす水と緑の景観軸の形成をめざします。
- ・記念の杜は、適切な管理と魅力の向上に努め、地域を代表する桜巡りの拠点としての活用を図ります。



方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- ・花岡八幡宮や福德稻荷社などの神社仏閣は、周辺の緑と一体的な保全に努めるとともに、神事や祭事等の価値を再認識し、地域の個性ある歴史文化の景観としての伝承を図ります。
- ・歴史的な資源が集積し、かつての旧山陽道の宿場町であったまちなみは、面影を残す建造物などの適切な保全と誘導に努め、地域を代表する歴史的なまちなみ景観軸として地域振興への活用を図ります。
- ・宿場町の歴史を活かした稲穂祭（きつねの嫁入り）は、地域の歴史を伝え発信する伝統行事として保全に努め、地域振興への活用を図ります。



方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- ・国道2号や末武大通線などの道路軸は、適切な景観誘導による秩序と活気のある道路景観形成を図るとともに、増加する住宅地が織りなす住宅景観との調和のとれた市街地景観をめざします。
- ・病院や地域交流センターなどが複合した医療・福祉の拠点となる「ふくしの里」は、適切な管理に努めつつ、地域の活動交流拠点として、また、市街地や北部の山々を望む眺望拠点としての活用を進めます。
- ・花岡歌舞伎などは、地域風土を学び伝える資源として文化の伝承と地域振興への活用を図ります。



花岡地域 景観まちづくり基本方針図



景観の軸と点

自然の景観	稜線軸		面的な景観（土地利用）	自然の景観	森林の景観	
	主な山			湖面の景観		
	河川軸			生活の景観	農地の景観	
	主な景観資源			住宅地の景観		
歴史文化の景観	旧山陽道		公園・緑地の景観			
	主な景観資源		商業地の景観			
生活の景観	賑わいの軸		工業地の景観			
	主な景観資源					
	主な集落					
	道路の景観資源					
	主な眺望地点					

4. 久保地域の景観まちづくりの基本方針



久保地域の景観まちづくり

新旧の生活のまちなみが調和しホタルが舞う 街と田園の景観まちづくり

切戸川の上・中流域となる久保地域は中央を切戸川が流れ、北と南に山が連なる地形をなしています。東西方向に旧山陽道がはしり、現在も国道2号、山陽自動車道、JR山陽新幹線がはしる交通の要衝です。

国道2号を中心に、交通の利便性の良さから久保団地（東陽）、周南工流シティー、下松スポーツ公園など計画的につくられた住宅地や工場、公園が緑の中に点在しており、整然としたまちなみ景観があります。

また、農地も多く市内最大の農業地域であり、農業体験などの交流機能も持つ公園施設である農業公園などの田園景観があります。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- ・ ^{わしず} 鷲頭山、烏帽子岳、茶臼山等の山々から吉原川、^{この} 小野川が流れ、豊かな自然の景観をなしています。
- ・ 小川にはホタルが生息し、初夏にはホタルの乱舞を見ることができます。
- ・ 美しい山や川の自然景観を守るとともにホタルなどの生物を大切にしていけることが望まれます。



鷲頭山

【歴史文化の景観】

- ・ 鷲頭山山頂には^{くだまつ} 降松神社上宮、中宮があります。降松神社若宮や切戸川中流域の恋路大橋から鷲頭山を眺望することができます。
- ・ 切山八幡宮は切山の小高い丘にあります。境内では切山歌舞伎が江戸時代から上演され、境内とともに歴史文化の景観を形成しています。切山歌舞伎などの地域が持つ貴重な伝統文化や歴史を守り、伝えていくことが望まれます。
- ・ 旧山陽道の宿場町であった久保には神社仏閣や古民家、^{こて} 鏝絵の残された民家など宿場町の面影が残されています。宿場町の面影を伝える建造物を保全活用し、伝えていくことが望まれます。



久保市のホタルの乱舞



小野川

【生活の景観】

- ・ 山地の起伏ある地形で、市街化調整区域として開発が抑制されたため、豊かな自然に囲まれた田園風景が残されています。それら山間部の田園風景を保全するとともに、担い手の育成や市民活動として保全する取組が望まれます。
- ・ 計画的に開発された土地が多く、整然とした住宅団地、工業団地が山の緑に映えて良好な景観を形成するとともに、住宅地内に設置された公園や緑地などが、身近な緑化空間を形成しています。
- ・ 下松スポーツ公園は、全市的なスポーツ・レクリエーションの拠点として、また防災拠点として活用されており、総合公園としての機能を有する交流拠点となっています。



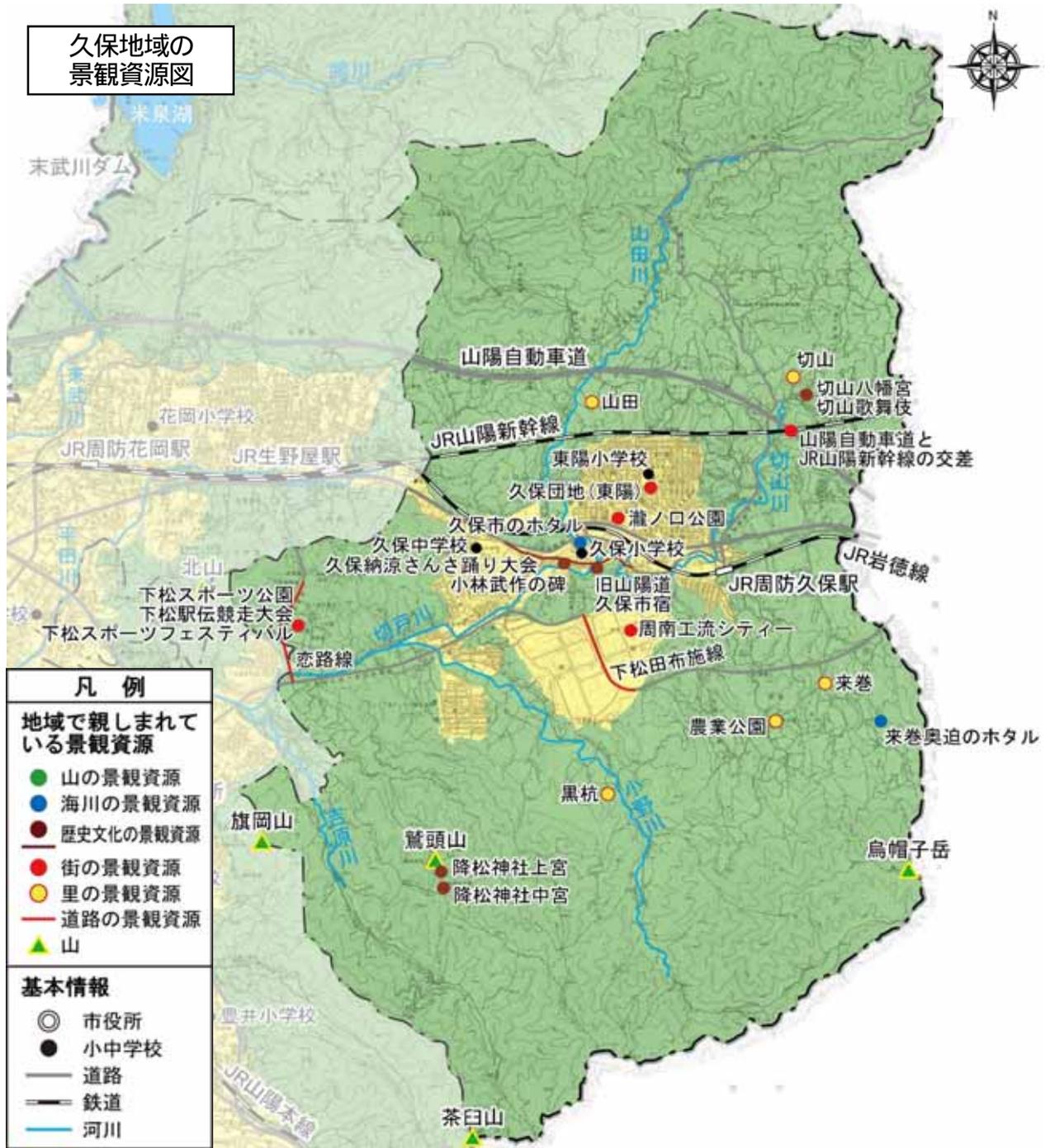
切山八幡宮



旧山陽道に面する古民家



周南工流シティー



景観の要素		地域で親しまれている景観資源
自然の景観	山・川・海の景観	鷲頭山、烏帽子岳、茶臼山、切戸川、 <small>この</small> 小野川、吉原川、久保市のホテル、来巻奥迫のホテル
歴史文化の景観		旧山陽道久保市宿、小林武作の碑、切山八幡宮、降松神社上宮、降松神社中宮
	伝統芸能の景観	切山歌舞伎
生活の景観	街の景観	久保団地（東陽）、周南工流シティー
	道路の景観	下松田布施線、恋路線、山陽自動車道と JR 山陽新幹線の交差
	公園の景観	下松スポーツ公園、瀧ノ口公園
	祭り・催しの景観	下松駅伝競走大会、下松スポーツフェスティバル、久保納涼さんさ踊り大会
	里の景観	切山、来巻、山田、黒杭、農業公園

景観まちづくりの目標

新旧の生活のまちなみが調和しホタルが舞う 街と田園の景観まちづくり

ホタルが舞う水辺や田園風景など豊かな自然環境に包まれ、宿場町の面影が残るまちなみ、新たな生活や産業拠点のまちなみが調和する街と田園の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- 市街地を取り囲む^{わしず}鷲頭山、烏帽子岳、茶臼山などの緑は、豊かな自然を感じられる山並みとして保全に努めます。
- 久保市や来巻奥迫などホタルが舞う小川は、自然環境の適切な保全と管理に努め、自然と触れ合う水辺、地域を代表する自然の景観として保全し、地域振興への活用を図ります。



方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- 降松神社(上宮、中宮)や切山八幡宮などの神社仏閣は、周辺の里山景観と一体的な保全に努めるとともに、神事や祭事等の価値を再認識し、地域の個性ある歴史文化の景観としての伝承を図ります。
- 江戸時代からの伝統をもつ切山歌舞伎(切山八幡宮)は、地域の歴史を伝え発信する伝統行事として保全に努め、地域振興への活用を図ります。
- 旧山陽道の宿場町であった久保周辺は、かつての面影を残す建造物などの適切な保全と誘導に努めつつ、地域の顔となる歴史的なまちなみ拠点としての活用を図ります。

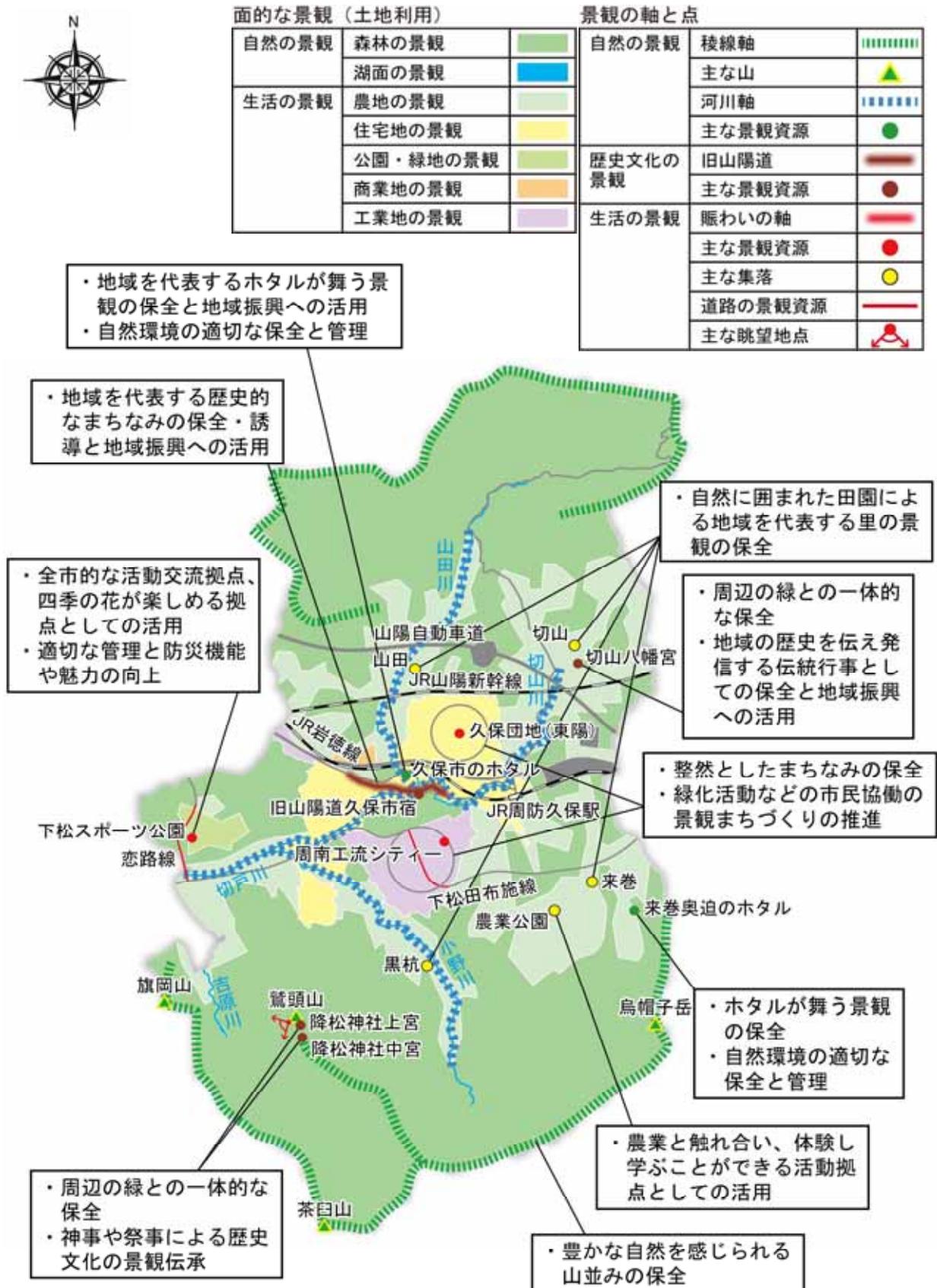


方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- 切山や山田などの田園風景は、地域を代表する里の景観として保全に努めます。また、農業公園は、農業と触れ合い、体験し学ぶことができる活動拠点としての活用を図ります。
- 下松スポーツ公園は、防災公園としての機能や憩いの場としての魅力の向上に努めつつ、適切な管理を行い全市的な活動交流拠点として、また、四季の花が楽しめる拠点としての活用を図ります。
- 久保団地(東陽)や周南工流シティーなどは、整然としたまちなみの保全に努めるとともに、適切な管理が行われるよう、緑化活動などの市民協働の景観まちづくりの展開をめざします。



久保地域 景観まちづくり基本方針図



5. 笠戸島地域の景観まちづくりの基本方針



笠戸島地域の景観まちづくり

島特有の風景を守りつつ観光振興に繋がる 笠戸島の景観まちづくり

瀬戸内海に浮かぶ笠戸島地域は、風光明媚な自然景観を有し、「笠戸大橋」により本土と結ばれ交通の便も良く、観光の島として知られています。

豊かな自然景観だけでなく、島の中央には造船所の景観、瀬戸内海の温暖な気候を活用して育てられているレモンの圃場が広がっています。

また、島の地形を活かして、海上でのイカダレースや島全土をコースとするトレイルランニングなどの全市を代表するイベントが、地域協働で行われています。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- ・ 笠戸島地域は瀬戸内海国立公園に指定され、尻高山、摺鉢山、火振岬、夕日岬、はなぐり岩など自然豊かな景観を有し、特に夕日の美しい島として知られています。
- ・ はなぐり海水浴場、海上遊歩道など豊かな自然を活かした観光レクリエーションの場は、賑わいを演出しています。
- ・ 国立公園の景観を含め、山並み、浜辺、磯、岬、そして、人々の生活など複数の要素から構成される島特有の自然景観の保全が望まれます。

【歴史文化の景観】

- ・ 深浦八幡宮や笠戸神社、沖浦観音、霊場八十八ヶ所などは、瀬戸内海の眺望や島の山々とあいまって、歴史文化的な景観を形成しています。
- ・ 海の安全を祈願する深浦管絃祭は、地域を代表する伝統行事で、提灯をともした数隻の打瀬船が夜の海を照らし、辺りは幻想的な雰囲気になります。
- ・ 島固有の歴史と伝統を守り育てるとともに、自然景観資源や歴史文化資源を周遊する工夫など、PR・活用する取組が望まれます。

【生活の景観】

- ・ 本浦や深浦地区は漁村のたたずまいを残し、深浦では集落の背景に棚田の風景が望めます。一方で、少子高齢化等による空き家や耕作放棄地が増加しており、適切な維持管理が望まれます。
- ・ 笠戸島は古くから造船の島として栄え、江の浦には瀬戸内海の自然を背景とした迫力ある造船所の景観があります。
- ・ 笠戸島家族旅行村や国民宿舎大城^{おおじょう}などは、瀬戸内の風景を眺める絶好のレジャー施設で、オートキャンプや温泉、自然散策も楽しめ、来訪者による賑わいを演出しています。
- ・ 道路や港などの社会基盤の整備にあたっては、島特有の景観や眺望に配慮し、景観づくりを誘導する取組が望まれます。
- ・ 賑わいの拠点となる「みなとオアシス」に登録され、市民参加による地域振興の取組が継続的に行われ、観光施設の活用による交流拡大や活性化が望まれます。



景観まちづくりの目標

島特有の風景を守りつつ観光振興に繋がる 笠戸島の景観まちづくり

浜辺、磯、岬など島特有の自然に包まれた観光の島の振興に繋げる視点から、島特有の自然・歴史文化・暮らしの風景を守りつつ、風光明媚な風景を活かした笠戸島の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- 笠戸島の山並みと緑、浜辺、磯、岬など島特有の資源は、ふるさと下松を代表する自然景観として保全に努めます。
- 雄大な多島美景観が望める笠戸島家族旅行村、夕日岬などは、全市を代表する眺望拠点としての活用を図ります。また、笠戸島公園線、笠戸島線などの道路は、笠戸湾の眺望確保に配慮した適切な管理に努め、島の自然環境と調和して様々な景色が楽しめる沿道景観の形成をめざします。
- はなぐり海水浴場など笠戸島の自然を活かした活動の場は、適切な管理と魅力の向上に努めつつ、全市を代表する観光レクリエーション拠点としての活用を図ります。



方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- 深浦八幡宮、笠戸神社、霊場八十八ヶ所など笠戸島固有の歴史を伝える神社仏閣は、周辺の里山や海の景観と一体的な保全に努めるとともに、神事や祭事等の価値を再認識し、島の個性ある歴史文化景観としての伝承を図ります。
- 海の安全を祈願する深浦管絃祭は、地域の歴史を伝え発信する伝統行事として保全に努め、地域振興への活用を図ります。



方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- 本浦地区や深浦地区などの漁村集落や棚田の風景は、島特有の暮らしのたたずまいを伝える景観拠点として保全に努めます。
- 江の浦の迫力ある造船所の景観は、島の発展を物語る資源の一つとして活用を図ります。
- 島を回遊する道路沿いは、案内機能や美化活動、花いっぱい運動の充実を図るとともに、島めぐり街道として沿道景観の形成をめざします。
- 笠戸島家族旅行村や国民宿舎大城^{おおじょう}などは、適切な管理に努めつつ、来訪者による賑わいを演出する拠点としての活用を図ります。
- イカダレースなどのイベントは、島の魅力を活かす活動として、地域振興への活用を図ります。



笠戸島地域 景観まちづくり基本方針図

景観の軸と点

自然の景観	稜線軸	
	主な山	
	河川軸	
歴史文化の景観	主な景観資源	
	旧山陽道	
生活の景観	主な景観資源	
	主な集落	
	道路の景観資源	
	主な眺望地点	

面的な景観（土地利用）

自然の景観	森林の景観	
	湖面の景観	
生活の景観	農地の景観	
	住宅地の景観	
	公園・緑地の景観	
	商業地の景観	
	工業地の景観	



【地域全体】

・浜辺、磯、岬など島特有の自然景観の保全

・周辺の里山や海の景観との一体的な保全
・神事や祭事による歴史文化の景観伝承

・雄大な多島美景観が望める眺望拠点としての活用
・笠戸島の自然を活かした観光レクリエーション拠点としての活用
・島の魅力を活かした活動・交流拠点の形成

・笠戸湾の眺望確保に配慮した適切な管理と様々な景色が楽しめる道路として活用
・案内機能や美化活動の充実と島めぐり街道としての沿道景観の創造

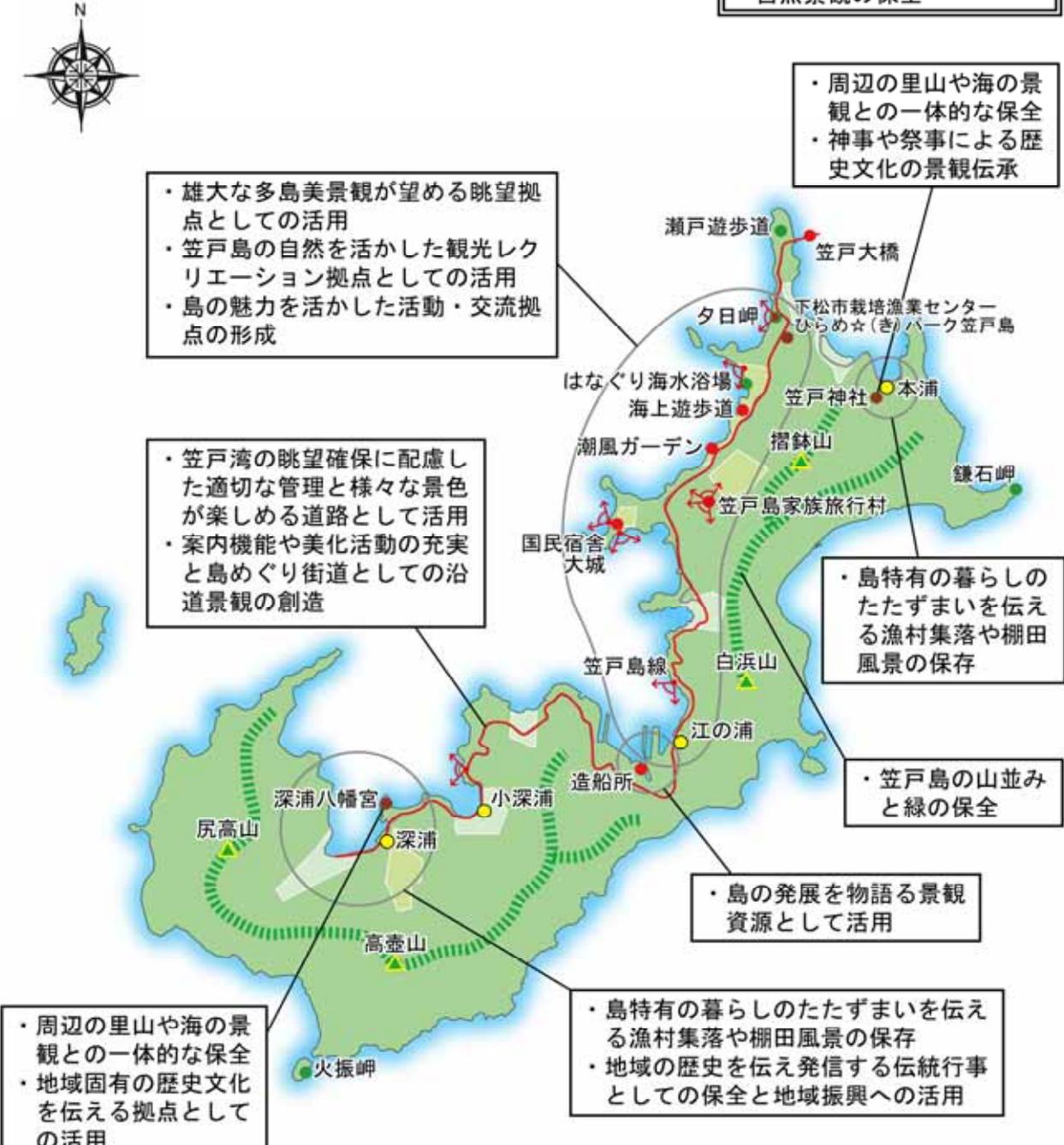
・島特有の暮らしのたたずまいを伝える漁村集落や棚田風景の保存

・笠戸島の山並みと緑の保全

・島の発展を物語る景観資源として活用

・周辺の里山や海の景観との一体的な保全
・地域固有の歴史文化を伝える拠点としての活用

・島特有の暮らしのたたずまいを伝える漁村集落や棚田風景の保存
・地域の歴史を伝え発信する伝統行事としての保全と地域振興への活用



6. 米川地域の景観まちづくりの基本方針



米川地域の景観まちづくり

棚田が広がる農村風景と四季折々の自然を映し出す湖面を活かした
里山の景観まちづくり

米川地域は末武川上流部の中国山地から連なる山々と谷間に発達した棚田が景観特性をなします。
温見^{ぬくみ}ダム、末武川ダム（米泉湖）の2つのダム湖があり、湖面に映し出された山々の景色が市民に親しまれています。米川トンネルや県道、市道の整備により自動車でのアクセスが向上し、市中心部からこの景観を見に来ることが容易になっています。

また、小規模ながら農業が営まれ、休耕田を活用したゆずの栽培や山の湧水を活用したあまごの養殖など、季節ごとに移ろう里山の景観があります。

景観特性と景観まちづくりの課題

【自然の景観】

- 中国山地から連なる山々と末武川上流部の溪流が、山間部の景観を構成しています。これらの豊かな自然・山地において廃棄物などが投棄されないよう保全することが望まれます。
- 温見ダム、末武川ダム（米泉湖）の湖面には、四季折々の自然の変化が映し出されます。また、大將軍山や西平谷のハイキングコースは豊かな自然の景色が、旧内藤家庭園や滝ノ口河川公園は紅葉が楽しめる場として親しまれています。



【歴史文化の景観】

- 山里には鎮守の森があり、石段と鳥居、奥深い森が山里の歴史を感じさせます。鎮守の森など地域のシンボルとなる要所は、適切な維持管理が望まれます。
- 大藤谷及び温見には「ふる里大師藤見八十八箇所」の石仏が八十八箇所に置かれ、地域で大切にされています。こうした石造物がいたる所にあり、里の棚田の景観とともに地域の特徴となる歴史文化の景観を形成しています。
- 西平谷周辺の山中には戦争の歴史を物語る砲台跡や探照灯跡、下谷周辺には大正時代の趣を残す万寿庵橋などの資源が残っています。こうした地域の歴史資産を評価し、記録と保存、活用し、伝承することが望まれます。

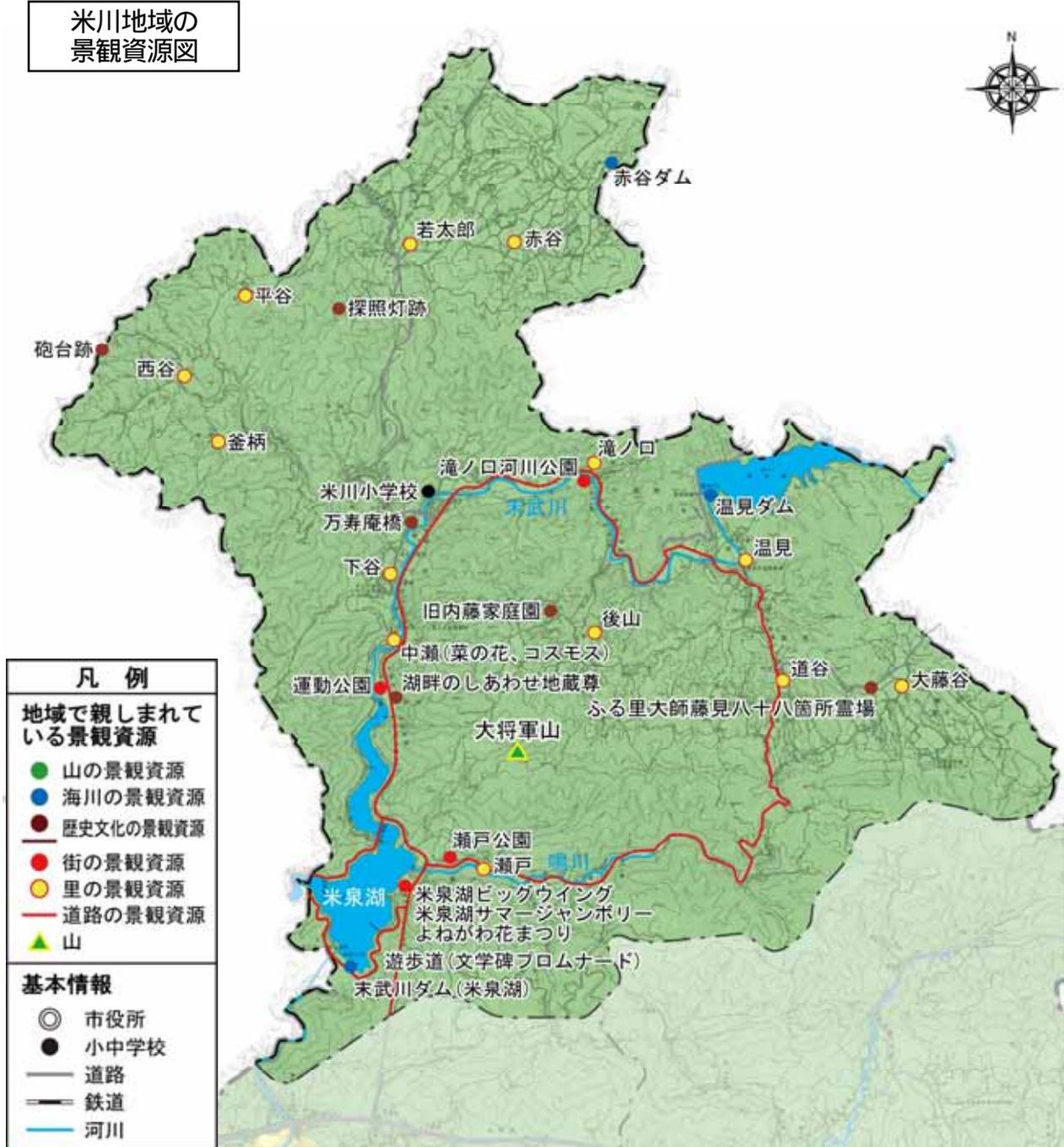


【生活の景観】

- 末武川流域の谷間には棚田が広がり、茅葺きをトタンで被った古くからの農家住宅も点在し、里の景観を見せています。高齢化、過疎化による耕作放棄地の増加を防ぐため、休耕田を活用したゆずの栽培が行われるなど、新たな里山の景観が形成されています。
- 末武川ダム（米泉湖）周辺は遊歩道や文学碑プロムナードなどが整備され、自然の中でのイベント等が行われるなど、多くの人を訪れます。湖畔の公園などの有効活用と、来訪者が気持ちよく山の景観を楽しむことができるような公園の適切な管理を、市民と行政とが連携して取り組むことが望まれます。
- 末武川ダム（米泉湖）上流の中瀬地区では、春は菜の花畑、秋はコスモス畑が市民を楽しませています。
- 誰でも利用できるコミュニティバス「米泉号」が運行されています。環境に優しい交通手段である公共交通の積極的な利用促進が望まれます。



米川地域の
景観資源図



景観の要素		地域で親しまれている景観資源
自然の景観	山・川・海の景観	大將軍山、末武川、温見ダム、末武川ダム（米泉湖）、赤谷ダム
歴史文化の景観		ふる里大師藤見八十八箇所霊場、湖畔のしあわせ地藏尊、万寿庵橋、砲台跡、探照灯跡、旧内藤家庭園
生活の景観	街の景観	
	道路の景観	遊歩道（文学碑プロムナード）
	公園の景観	米泉湖ビッグウイング、瀬戸公園、滝ノ口河川公園、運動公園
	祭り・催しの景観	米泉湖サマージャンボリー、よねがわ花まつり
里の景観		瀬戸、下谷、滝ノ口、温見、後山、道谷、大藤谷、西谷、平谷、釜柄、若太郎、赤谷、中瀬（菜の花、コスモス）

景観まちづくりの目標

棚田が広がる農村風景と四季折々の自然を映し出す湖面を活かした 里山の景観まちづくり

豊かな山々に囲まれた棚田が広がる農村風景や、四季折々の自然の変化が映し出される^{ぬくみ}温見ダム、末武川ダム（米泉湖）の湖面などの地域を象徴する風景を活かしながら、里山特有の景観まちづくりをめざします。

景観まちづくりの基本方針

方針1 郷土の自然を守り・活かす 自然の景観まちづくり

- ・中国山地から連なる山並み、山間を流れる溪流、棚田の農村風景は、地域を象徴する里山景観として保全に努めます。
- ・四季折々の里山の風景を映し出す温見ダムと末武川ダム（米泉湖）の湖面周辺は、適切な管理と魅力の向上に努めつつ、地域を代表する顔としての活用を図ります。
- ・滝ノ口河川公園は、路上駐車解消やトイレの整備など適切な管理を図りつつ、交流拠点としての活用を図ります。



方針2 歴史や伝統を守り・伝える 歴史文化の景観まちづくり

- ・各集落の神社仏閣や鎮守の森は、周辺の里山景観と一体的な保全に努めるとともに、神事や祭事等の価値を再認識し、地域の個性ある歴史文化の景観としての伝承を図ります。
- ・道路沿いに点在する観音様や地藏尊は、これらにまつわる民話や言い伝えを含め、周辺の里山景観と一体的な保全に努めます。また、砲台跡や探照灯跡、万寿庵橋などの時代を物語る資源は、その趣を保全するとともに、歴史散策の拠点としての活用を図ります。



方針3 まちなみを整え・創る 生活の景観まちづくり

- ・^{くだたに}下谷地区などの谷間に点在する農村集落や棚田、育てられているゆずの木々の風景は、地域を代表する里山景観として保全に努めます。
- ・コミュニティバスによる生活交通利便性の拡大を図るとともに、地域を回遊する道路沿いは、案内機能や美化活動の充実を図り、里めぐり街道としての沿道景観の形成をめざします。
- ・中瀬地区の「春の菜の花」「秋のコスモス」の風景は、地域の個性ある景観として保全に努めつつ、地域振興への活用を図ります。
- ・末武川ダム（米泉湖）湖畔の公園は、適切な管理に努めつつ、地域の活動拠点、交流拠点としての活用を図ります。



